

第31回三遠南信サミット 2023 in 遠州

地域に新たな価値の芽吹きを
～ “気づき”からの魅力共創～



主催：三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）

共催：三遠南信地域経済開発協議会

後援：経済産業省、国土交通省

タイムスケジュール

San-En-NanshinSUMMIT

13:00~14:30 (90分)	分科会 (1) 第1分科会 (2階 レアンジェの間) 道が拓く連携 (コ-ディネ-ター) 公益社団法人東三河地域研究センター 常務理事・調査研究室長 高橋 大輔 氏 (2) 第2分科会 (2階 飛鳥の間) 人口減少克服に向けた地域間連携 (コ-ディネ-ター) 法政大学国際文化学部教授 高柳 俊男 氏 (3) 第3分科会 (2階 桃山の間) 魅力を創る連携 (多様な主体による連携) (コ-ディネ-ター) 一般社団法人ほの国東三河観光ビューロー マーケティングディレクター 田中 三文 氏
14:30~15:00 (30分)	～ 移動 (全体会会場へ) ～
15:00	全体会 (2階 鳳 (中) の間)
15:01~15:06 (5分)	■会長あいさつ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 会長 浜松市長 中野 祐介
15:07~15:10 (3分)	■開催地代表挨拶 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長 浜松商工会議所会頭 斉藤 薫
15:11~15:23 (3分/人)	■来賓挨拶 経済産業省 関東経済産業局 局長 太田 雄彦 氏 国土交通省 中部地方整備局 局長 佐藤 寿延 氏 静岡県 副知事 出野 勉 氏
15:24~15:27 (3分)	■列席者紹介及び祝電披露
15:28~16:28 (60分)	■講演 演題 「三遠南信の超絶まちづくり ～突き抜けた広域連携を実現する～ (2023年度版) 講師 BBT 大学大学院 経営学研究科 MBA 教授 / BBT 大学 経営学部教授 谷中 修吾 氏
16:29~16:45 (15分程度)	～ 休憩 ～
16:45~16:48 (3分)	■サミット宣言 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 会長 浜松市長 中野 祐介
16:49~16:52 (3分)	■次回開催地代表者あいさつ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長 豊橋市長 浅井 由崇
16:53~16:59 (5分程度)	～ 報道機関向け写真撮影 ～
17:00	■閉会
17:01~17:05 (5分)	～ 休憩 ～
17:05	民俗芸能観覧 (2階 鳳 (中) の間)
17:05~17:20 (15分)	和合の念仏踊り (長野県下伊那郡阿南町)
17:21~17:36 (15分)	遠州大念仏 (静岡県浜松市)
17:37~17:50 (10分程度)	～ 移動 (交流会会場へ) ～
17:50	交流会 (2階 鶴の間)

本年度の三遠南信サミットは、平成5年度から数え31回目を迎え、会場参集により開催した。
また、令和5年中に、分科会・全体会の様子をサミット特設ページにて配信する。

(第31回三遠南信サミット2023 in 遠州 特設ページ <https://www.sena-vision.jp/sena/summit/no31.html>)

1. 事業名

第31回三遠南信サミット2023 in 遠州

2. テーマ

地域に新たな価値の芽吹きを ～“気づき”からの魅力共創～

3. 開催日

令和5年10月30日(月)

4. 開催会場

グランドホテル浜松(静岡県浜松市中区東伊場1-3-1)

5. 主な内容

(1) 分科会 13:00～14:30

① 第1分科会

テーマ 道が拓く連携

中部横断自動車道は、令和3年8月の全線開通から2年が経過した。大きな経済効果があり、周辺地域では大型商業施設の出店計画や新工場の立地が現在も進んでいる。この事例を参考に、今年5月に青崩峠トンネル(仮称)が貫通し、全線開通が現実味を帯びてきた三遠南信自動車道による本地域への効果について考え、開通に向けて必要な地域が連携した取組について意見を交わす。

コーディネーター 公益社団法人東三河地域研究センター 常務理事・調査研究室長
高橋大輔 氏

参加者 豊川市、浜松市、中川村

(構成団体の長) 豊橋商工会議所、浜松商工会議所、飯田商工会議所、駒ヶ根商工会議所
豊橋市議会、浜松市議会、飯田市議会

住民団体(三遠南信住民ネットワーク協議会)

※行政団体3名、経済団体4名、議会3名、住民団体2名 計12名

会場 グランドホテル浜松 2階 レアンジェ

協議内容 第1分科会では、国土交通省甲府河川国道事務所から「中部横断自動車道における広域連携、整備効果」について、国土交通省浜松河川国道事務所から「三遠南信自動車道の概略、進捗状況、整備効果等」について、事例を紹介いただいた後、参加者から「三遠南信自動車道の開通後の活用法や期待」「連携の方向性等」について、意見交換や協議を行った。

<確認事項>

三遠南信自動車道の開通を見据え、整備効果を地域へ波及させるため、具体的な SENA による活動・事業へ展開する。

② 第2分科会

テーマ 人口減少克服に向けた地域間連携

人口減少という共通の社会課題に対して、市町村間を越えた「生活圏」を維持するために必要となる地域間の連携について、広域連携による移住や関係人口の取組事例を参考に意見を交わす。

コーディネーター 法政大学国際文化学部教授
高柳俊男 氏

参加者 蒲郡市、東栄町、森町、根羽村、売木村、天龍村
(構成団体の長) 御津町商工会、天竜商工会、伊那商工会議所
住民団体（三遠南信住民ネットワーク協議会）
※行政団体6名、経済団体3名、住民団体2名 計11名

会場 グランドホテル浜松 2階 飛鳥

協議内容 第2分科会では、上伊那広域連合、南信州広域連合、東三河県庁（愛知県東三河総局）から「広域的な取組の背景」「取組の中での課題や成果」について紹介いただいた後、参加者から「人口減少に伴い顕在化してきている課題とその対策」「人口減少克服のために地域連携で取り組むべきこと」について、意見交換や協議を行った。

<確認事項>

地域内の様々な取組により、三遠南信地域の魅力を高め、多くの人に関心を持ってもらい、この地域の認知度が高まるよう、SENA を構成する全ての主体が連携して情報発信等に取り組む。

③ 第3分科会

テーマ 魅力を創る連携（多様な主体による連携）

三遠南信地域の発展には、官民連携や住民参画など多様な主体と連携しあってブランド力を高めていくような地域活性化の取組が求められている。先駆的な取組を行っているせとうち DMO の事例を参考に、本地域の個性豊かな特色を持つ資源の価値を見直し、魅力発信の方法や連携の可能性について、三遠南信全体で意見交換を行う。

コーディネーター 一般社団法人 ほの国東三河観光ビューロー マーケティングディレクター
田中三文 氏

参加者 豊橋市、新城市、設楽町、磐田市、飯田市、駒ヶ根市
(構成団体の長) 豊川商工会議所、蒲郡商工会議所、田原市商工会、浜名商工会、森町商工会
住民団体（三遠南信住民ネットワーク協議会）
※行政団体 6 名、経済団体 5 名、住民団体 2 名 計 13 名

会場 グランドホテル浜松 2 階 桃山

協議内容 第3分科会では、株式会社瀬戸内ブランドコーポレーションから、「瀬戸内地域の魅力やブランドを創出する地域資源を活かした観光事業への取組」について紹介いただきながら、参加者から「参加者の団体における観光振興の取組」「連携の強みを生かしたブランド力を高める取組に関する他地域との連携提案」について、意見交換や協議を行った。

<確認事項>

「地域の特徴を尊重」「三遠南信のブランド」「生かすべきブランドの方向性」「ブランド化による地域活性化」「担い手と推進体制」「大きなチャンスであるアクセスを生かす」という6つの観点から事業連携・推進体制等を考え、実施していくことが重要である。

(2) 全体会 15:00～17:00

① 挨拶

経済産業省 関東経済産業局 局長 太田雄彦 氏

国土交通省 中部地方整備局 局長 佐藤寿延 氏

静岡県副知事 出野勉 氏

② 講演

演題 三遠南信の超絶まちづくり ～突き抜けた広域連携を実現する（2023年度版）～

講師 BBT 大学大学院 経営学研究科 MBA 教授 谷中修吾 氏

③ サミット宣言

※三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長の中野祐介浜松市長が代表して読み上げ

(3) 民俗芸能観覧 17:05～17:40

・和合の念仏踊り（長野県下伊那郡阿南町）

令和4年（2022年）にユネスコ無形文化遺産に登録された「^{ふりゅうおどり}風流踊り」のひとつ。長野県を代表する盆の念仏踊りのひとつで、毎年8月13～16日に開催。伝承では宮下家の15代当主が長野市の川中島で習い覚えたとされているが、宮下家の出身地である浜松の遠州大念仏との関連性も指摘されている。

・遠州大念仏（静岡県浜松市）

昭和47年（1972年）に市指定無形民俗文化財に指定。遠州地方の特色ある盆行事。中世の踊り念仏が遊行僧や放下僧から伝えられたものであるが、伝説においては、元亀3年（1572年）の三方原の合戦で戦死した将兵の霊を慰めるため徳川家康公が僧に命じて始まったものと言われている。

6. 当日の来場者数

来場者数 約470名

7. その他（関連事業：三遠南信住民ネットワーク協議会による住民セッション）

開催日時 令和5年10月30日（月）10:00～12:00

テーマ 三遠南信の将来を見据えた住民団体の連携活動 一気づきから連携を再構築するー

コロナ禍の経験を踏まえて三遠南信地域の県境を越えた住民団体の連携活動を再確認し、これからの交流・連携・協働のあり方や課題について考える。

- プログラム
- 1.開会あいさつ 代表世話人 山内秀彦
 - 2.趣旨説明 事務局 平川雄一
 - 3.第1部【話題提供】民俗芸能保存・継承活動と連携の取り組み
 - ・「三遠南信の民俗芸能 継承と連携の動き」上嶋裕志氏（浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会・姫街道連絡協議会 姫街道未来塾会長）
 - ・「演者と観客の新しい関係を考える」高田孝典氏（奥三河ふるさとガイド）
 - 4.第2部【意見交換】交流研修会事業報告と連携企画の提案
ファシリテーター：監事 水島加寿代
 - 5.総括・閉会あいさつ 副代表世話人 清水良文

第 31 回三遠南信サミット 2023 in 遠州 サミット宣言

第 31 回三遠南信サミット 2023 in 遠州は、昨年第 30 回の節目を経て、大きな変革の時代を迎えるなか、改めて“連携”について考えることに主眼を置き開催しました。

「地域に新たな価値の芽吹きを ～“気づき”からの魅力共創～」をテーマに、全体会では新たな価値の芽吹きを促すため、全国の先駆的な取組事例から学び、分科会では「道」「生活圏」「官・公と民」をキーワードに本地域内外の連携事例を踏まえ、魅力共創に向けて求められる今後の地域連携について議論しました。

本日の議論を踏まえ、我々三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、以下の項目に重点を置き、取組を推進します。

- 1 中部横断自動車道の事例を参考に、三遠南信自動車道が本地域にもたらす効果や全線開通後に向けた道路活用の在り方を模索し、最大限の整備効果を地域へ波及させるための交流や取組、連携を検討します。また、大都市圏や世界と結ばれる広域連携都市圏の形成をさらに進めるため、引き続き三遠南信自動車道の早期全線開通をはじめ、浜松湖西豊橋道路やリニア中央新幹線の早期実現に向け、地域が一体となって提言活動を展開します。
- 2 持続可能な広域生活圏の形成に向け、地域の幅広い情報を連携し、丁寧に届けることで、若者をはじめとする三遠南信地域に魅力を感じる人々と各地域とを結びつけ、共感による関係人口の拡大を図ります。さらに、「価値を共有する者」が活躍できる地域づくりを進めることで、三遠南信地域の魅力を向上させ、より多くの「価値を共有する者」を呼び込む好循環につなげます。
- 3 三遠南信地域の各団体による魅力共創に向けた地域活性化の取組を、県や市町村の単位ではなく、エリア一体となって実践する重要性を再認識し、多様な主体が連携して地域の魅力の磨き直しや発信力の強化を図る取組を進めます。それにより、三遠南信地域の魅力に、より多くの方が気づくよう地域ブランド力の向上に努めます。

本年 5 月 26 日には三遠南信自動車道整備において難所と言われていた青崩峠トンネルが貫通し、地域連携の要である三遠南信自動車道の全線開通に大きく近づきました。

また、第三次国土形成計画が 7 月に閣議決定され、本地域を包含した中部圏広域地方計画の検討が進められています。このような国の計画に関連した取組や時代の大きな変化に対応し、2030 年を目標年次とする第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの実現に向け、この場を共有する全ての主体が取組を進めることを確認し、第 31 回三遠南信サミット 2023 in 遠州のサミット宣言とします。

令和 5 年 10 月 30 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議
第 31 回三遠南信サミット 2023 in 遠州

歳入歳出決算

San-En-NanshinSUMMIT

○歳入内訳

(単位：円)

項目	令和5年度 予算額	令和5年度 決算額	説明
1 事業費	4,000,000	3,469,989	
2 参加負担金	780,000	918,000	交流会負担金 (6,000 円×153 人)
計	4,780,000	4,387,989	

○歳出内訳

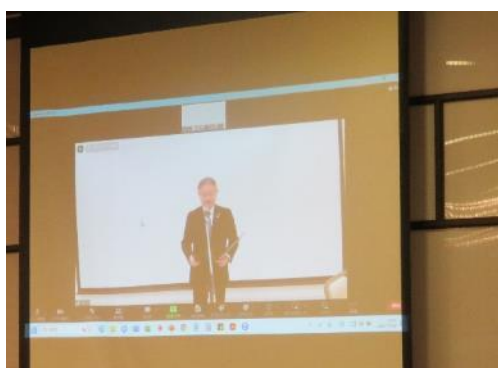
(単位：円)

項目	令和5年度 予算額	令和5年度 決算額	説明
1 運営業務委託費	2,000,000	934,780	サミット運営・録画 ほか
2 会場関係費	1,500,000	1,686,151	サミット会場・備品使用料
3 交流会設営費	0	0	交流会会場設営費
4 交流会飲食費	780,000	924,000	うち、918,000 円は参加負担金を充当
5 住民セッション 関係費	250,000	249,998	企画・運営業務委託料
6 会議費	10,000	0	
7 事務費	40,000	122,767	郵送費、消耗品費、振込手数料 ほか
8 謝金	200,000	470,293	分科会・全体会登壇者謝金、民俗芸能 披露団体謝金
計	4,780,000	4,387,989	

◆サミット特設サイト



◆会長による開会宣言（別会場への配信）



◆第1分科会



◆第2分科会



◆第3分科会



◆全体会（会長挨拶）



◆全体会（開催地代表挨拶 齊藤副会長）



◆全体会（関東経済産業局 太田局長 挨拶）



◆全体会（中部地方整備局 佐藤局長 挨拶）



◆全体会（静岡県 出野副知事 挨拶）



◆全体会（講演）



◆サミット宣言



◆正・副会長集合写真



◆民俗芸能観覧（和合の念仏踊り）



◆民俗芸能観覧（遠州大念仏）



<遠州地域>

◆静岡新聞 2023年10月31日(火)

三遠南信道 効果全域へ

浜松でサミット 宣言発表



第31回 三遠南信
地域間新たな価値を

市長 3県連携「新たな基盤」

静岡、愛知、長野の3県地域の自治体も経済団体でつくる三遠南信地域連携サミット推進会議のEENAは30日、「第31回三遠南信サミット」を浜松市中央区で開いた。EENA会長の中野拓介浜松市長は、三遠南信自動車道の整備益を地域に最大限波及させるための交流や取り組み、連携の検討、持続可能な域生活圏の形成に向けた共感による関係人口の拡大、魅力や発信力の強化による地域ブランド力の向上の3項目を重点に掲げたサミット宣言を発表した。

サミットテーマは「地域に新たな価値の芽吹きを創る」。自治体や経済界の関係者、地域住民が一堂に会し、地域連携による課題解決や魅力創出の方向性について意見を交わした。

宣言は、三遠南信自動車道の早期全線開通や、浜松湖西橋瀬道路とリニア中央新幹線の早期実現に向けて、地域一体となって協賛活動を展開する決意を盛り込んだ。三遠南信地域の魅力を感知する人が活躍できるサミット宣言を交じ、地域の発展に力を合わせる中野拓介浜松市長（右から2人目）と浜松市議会議員（前4人目）ら30日午後、浜松市中央区

地域づくりの推進、エリア一帯となった魅力共創に向けた取り組みの重要性なども強調した。

中野市長は三遠南信自動車道の整備エリアとされる静岡、長野県境の青原峠トンネル（仮称）が5月に貫通したことに触れ、「全線開通が大きく近づき、地域の新しい連携・交流の基盤ができあがる時期に来てい

る。ポテンシャルあふれるこの地域がより潤いを探るべく活性化することで、日本の発展にも結びつけた」と述べた。

サミットは各自治体が果敢と取組もうと、2024年から開催している。来年は愛知東三河地域で開催する。

（浜松新聞・宮崎浩二）

三遠南信地域の道路整備について議論する分科会参加者＝浜松市中区

三遠南信サミット分科会

浜松市長「命の道議論を」



「第31回三遠南信サミット」は30日、浜松市中区マゼラン会に先立ち、分科会を開いた。道路整備、人口減少対策、魅力創造のテーマで加藤市町村の市長、議会議員、経済団体代表らが話し合った。＝関連記事5面へ

自動車道完成へ連携強化

道路整備の分科会は浜松市の中野区長、戸田誠市議会議員、斎藤誠浜松商工会議所会頭を含む10人が出席し、三遠南信自動車道がもたらす効果や期待を話し合った。治療を自治体の出資から、少子高齢化や豪雨による道路損傷、医療体制の手薄さ、農林水産物の高い輸送費、伝統芸能の担い手減少といった共通する課題を挙がり、自動車道の完成に向けて自治体間の連携強化を求める意見が相次いだ。

中野市長は「自動車道を高度医療機関へのアクセスや災害時避難の利便性を高める「命の道」と表現し、15時から非常時の相互応援を議論できる関係性を築きたい」と呼びかけた。戸田議長は「伝統文化の保全、斉藤会頭は産業活性化などを中心と話題を切り出した。分科会が県内市長ではほかに高松市長、松山市長

大田蔵雄森町長が出席した。
（浜松総局・富坂吉）



第31回 三遠南信サミット2023 in 遠州
地域に新たな価値の芽吹きを～“気つき”からの魅力

サミット宣言を発表し手を合わせる(右から)飯田市の佐藤健市長、豊橋市の浅井由崇市長、浜松市の中野祐介市長、浜松商工会議所の斉藤薫会頭ら=30日、浜松市中区のグランドホテル浜松で(田中利弥撮影)

道路完成見据え連携 浜松でサミット 交通網の重要性確認



三遠南信地域の自治体や経済団体、住民らが一堂に会し、県境を越えた連携について話し合う「第31回三遠南信サミット」が30日、浜松市中区のホテルで開かれた。5月に三遠南信自動車道の難所「青崩峠トンネル」が貫通したことを踏まえ、この地域の交通ネットワーク整備と官民連携の重要性を確認した。『関連』

面
サミットは静岡、愛知、

長野3県の自治体や商工会議所など95団体でつくる「三遠南信地域連携」シヨンプ推進会議(SENNA、セナ)が主催。浜松市、愛知県豊橋市、長野県飯田市が毎年1回、持ち回りで開いている。

サミット全体会で、セナ会長を務める中野祐介・浜松市長は「県境を取り払って連携することで、新たな産業や新たな力が生まれていく。全国を見渡してもどこにもない地域だ」と強調。この地域が連携することで日本の成長をけん引する地域にもなれるのではないかと話した。

三つの分科会では、各地で取り組む地域ブランドの展開や人口減少対策などを議論。住民セッションでは、民俗芸能の保存などをテーマに議論が交わされた。

成果文書となる「サミット宣言」では、三遠南信道の早期全線開通や、関係人口の拡大、多様な担い手による地域ブランドの向上に取り組むことを確認した。サミットには3県から420人が参加。県西部からは浜松のほか、湖西、磐田、袋井、菊川、御前崎の各市と森町の首長が参加した。(木谷孝洋)

物流、観光活性化を

第31回三遠南信サミットでは、3県の自治体首長や市民団体などが、三遠南信自動車道の開通を見据えた地域連携のあり方について活発な議論を交わした。
(大岡彩也花)

浜松で「サミット」



住民団体も意見交換

サミット分科会では、交通ネットワーク、人口減少対策、地域ブランド展開の活用を巡り、救急救命や防災、物流や観光の活性化などの議論が出た。浜松市の中野祐介市長は「三遠南信は広域で、災害で二帯が被害を受けることはそうない。平時から訓練をし、非常時に三遠南信道を使って補充し合えたい」とと提案した。

地域ブランドの議論では、磐田市の原地昭昭市長が「スポットを移したまちづくりを紹介し、「リーディングのシブヒロ磐田駅」や「にっぽろ園遊」のサポーターにどう関与してもらい、遠州にお金を落着けてもらうか」という点で課題がある」と指摘した。

交通網整備促進で連携開始

三遠南信地域の連携は、三遠南信自動車道をはじめとする交通網の整備促進を主眼に定められてきた。

磐田県飯田市から浜松市北区の約100人を結ぶ三遠南信道は、1972年に静岡、愛知、長野の3県知事会議で建設促進を決定、87年に整備が本格化した。

三遠南信地域連携の主な出来事

1972年	静岡、愛知、長野県による3県知事会議で三遠南信自動車道の建設促進を決定
86	三遠南信道建設促進推進協議会が発足
87	三遠南信道が国の高規格幹線道路路線に位置づけられる
94	第1回三遠南信サミットが開催
2008	「三遠南信地域連携ビジョン」が策定され、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENNA)が発足
23	三遠南信道の「青崩峠トンネル」が開通

現在約6割が整備され、全線開通するご浜松、飯田間の移動が40分以上短縮されること見込む。

2008年には自治体と経済団体を中心とし、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENNA)が発足した。年一回の三遠南信サミットで現場を巡るなど、87年に整備が本格化した。

今年5月には青崩峠トンネルが貫通し、全線開通への期待が高まる。飯田市内は、二子中央新幹線の長野原駅の建設が予定され、SENNA事務局で浜松市企業課の河野和世さんは「人と物の動きが大きく変わる可能性がある。どんな連携が必要かを踏まえ、準備を進めていきたい」と話す。

3県の住民団体による意見交換は、20余りの団体から約40人が参加し、民俗芸能の保存や継承活動と連携を話し合った。

姫街道連絡協議会・姫街道未だ会長の上嶋裕志さんは、無形民俗文化財の広域連携について「浜松市と南信州は連携があるが、東三河との連携ができていない。三遠南信全体の連絡協議会ができれば」と提言。参加者からは「三遠南信道ができて、住民同士の間が広がる」と歓迎された。



被襲された濱州大仏

三遠南信道の全通見据え議論

静岡・遠州、長野・南信州、愛知・東三河の3地域の住民や産官学が参加する「三遠南信サミット」が30日、浜松市内で開かれた。3地域を結ぶ三遠南信自動車道の建設が最難関とされた「青崩峠トンネル」(仮称)の貫通などで前進していることを受け、全線開通での経済効果なども見据えた地域連携の具体策について議論が交わされた。

同サミットは3地域の持ち回りで開催され、31回目の今回は420人が参加した。主催団体「三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENNA)」の会長を務める浜松市の中野祐介市長は「県境を取っ払った連携で新たな力が生まれてくることを証明できている」と述べた。浜松商工会議所の斉藤憲会頭は「三遠南信道は物流や観光など経済の大きな推進力となる」と期待を示した。

行政や経済、学術機関など一堂に



サミット宣言後、記念撮影に応じる自治体や経済界のトップら
(グランドホテル浜松で)

第31回三遠南信サミット 2023 三遠州

【豊田南信】の4機関や経済団体、学術機関などが一堂に集って意見を交わす。第31回「三遠南信サミット」2023は31日、静岡県浜松市内のホテルで開かれた。地域連携強化を盛り込んだサミット宣言を採択した。

宣言では、「三遠南信自動車道の整備効果豊田地域に最大限波及させる交流や取り組み、連携の検討▽持続可能な地域生活圏の形成に向けた関係人口の拡大▽地域ブランド力の向上」を重点的に推進することをあつとめた。

三遠南信サミットは、この思いからスタートした。その後、地域の社会課題解決にむけて、事業化するアイデアが有効だと認め、三遠南信地域も積極的に受け持った。アイデアが実現を促す下期を促して語った。

全体会に先立ち、3つの分科会で地域連携強化について議論した。

今回のサミットは、豊田南信で開かれた。(中嶋真吾)



谷中教授による講演(同)

三遠南信連携加速の機運

青崩峠トンネル貫通後初 浜松でサミット

伊那谷や愛知県東部、静岡県西部の地域連携を考える第31回三遠南信サミットは30日、浜松市で開いた。三遠南信道建設工事で最大の難所とされた青崩峠トンネル(長野―静岡県境)が5月に貫通し、開通への期待がさらに高まる中での開催。整備効果に期待し、関係人口拡大や地域ブランド方向上を図るなど盛り込んだサミット宣言をした。

開通効果 首長ら討論



第31回 三遠南信サミット
地域に新たな価値の芽吹きを〜“貫つぎ”からの読み

三遠南信地域連携ビジョン推進会議(事務局・浜松市)を構成する39市町村が対象で、首長や議員、商工関係者ら約470人が参加。分科会と全体会に分けて開いた。開通がもたらす効果や地域連携を考える分科会では12人が意見交換。飯田商工会議所の原勉会頭は「企業間連携の加速が期待できる」とし、飯田下伊那地域からのアクセスが改善する三河港(愛知県豊橋市)の活用を重視している

三遠南信サミットのプログラムで披露された「和合の念仏踊」

と話した。中川村の宮下健彦村長は「伊那谷の山岳と太平洋を結ぶ最短ルート」と観光

面での期待を示した。静岡、愛知両県の関係者は、南海トラフ地震など災害時の支援ルートや、山間部の医療過疎地域と都市部の病院をつなぐ救急救命ルートとして期待。浜松市の中野祐介市長は「三遠南信道開通で、災害時に地域が相互に補完しあう基盤ができる」とした。

全体会では佐藤健・飯田市長らが登壇し、推進会議会長の中野市長がサミット宣言を読み上げた。終了後、国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産に昨年登録された阿南町の「和合の念仏踊」を、地元保存会が披露した。来年のサミットは愛知県豊橋市で開く予定。

